

# 小学六年

# 国語

## 解答と解説

1

問一	工	21
問二	罪	

22

23

24

25

26

問三	い	幸	一	子	
	に	せ	ト	ど	
	伝	の	ナ	も	
	え	た	ー	を	
	あ	め	で	育	
	う	に	あ	て	
	こ	必	リ	る	
	と	要	、	う	
	が	な	子	え	
	で	こ	ど	で	
	き	と	も	の	
	る	を	の	対	
	存	お	成	等	
	在	た	長	な	
	。	が	や	パ	23 24 25 26

問六	イ	32
問七		
	イ	(題不問)(空答)
	オ	33
問八		
	ア	34
問九		
	ア	35
問十		
	し	
て		
い		
た		
。		36

5	4	3		問十一	問八	問四	問一
(6) 根幹 65	(1) 軽快 60	(1) ウ 55	(1) 春 50	問十一 イ 49	自 分 の あ り 46	イ 40	相 手 と 才 41 37
(7) 段落 66	(2) 移植 61	(2) イ 56	(2) 冬 51		の あ り 46	問五 1 工 2 ウ 42 3 ア 43 44 45	才 41 38 ア 38 ガ ラ ス 張 45 39
(8) 追加 67	(3) 幕府 62	(3) 才 57	(3) 秋 52		世 の 中 の 期 47	問九 ア 43 問六 ウ 44 問七 ウ 45	ア 38 ガ ラ ス 張 45 39
(9) 欲 68	(4) 建造 63	(4) ア 58	(4) 夏 53		内 面 48	問十 47	
(10) 勢 69	(5) 貿易 64	(5) 工 59	(5) 夏 54				

(配点)  
 ①〔問三〕7点、〔問四〕各3点、〔問五〕各2点、他各5点  
 ②〔問五〕各2点、他各5点  
 ③④⑤各2点 } 計150点

**【解説】**

【1】 いとうみくの『蒼天のほし』(双葉社)から出題しました。  
 二十一歳の保育士、斗羽風汰が、さまざまな家庭から預けられた子どもたちと触れ合いながら保育士として奮闘する様子を描いた場面です。

**問一 B1 理由 比較**

「クレームを言つてくれる保護者のほうがラク」という坂寄先生などにも言つてくれない保護者のほうがいいという風汰先生の、その後の会話に注目しましょう。「思つてることをことばにしてくれば、なにをしてほしいのか、どんなことに困っているかもわかる」「わかれば、それをどうすればいいのか考えることができる」という発言から、坂寄先生はクレームをつけられた後に自分たちがすべき対応がつかみやすいという点でクレームを言つてくれる保護者のほうがラクだと言つていることがわかります。したがつて、エが正解となります。ア「それだけで保護者からの信頼を得ることができる」、イ「自分たちの仕事が認められやすくなる」、ウ「ショックを受けたりムカッとしたりすることが、それより後の自分の仕事に役立つ」がそれぞれ誤っています。

**問二 B1 具体化 関係づけ**

——線②は園長先生の言葉です。この言葉は、子どもの幸せを考えるとき、親が幸せであることも大切であるという意味です。この言葉を坂寄先生がどうとらえているかは、その後の坂寄先生の発言を見るとわかります。2ページ上段にある坂寄先生の発言を追っていくと、保護者について「罪悪感

とか不安をどこかに感じて子どもを預けている」と表現している部分が見つかります。  
 ※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

**問三 B2 具体化 推論**

保育園が寿司屋でもラーメン屋でもないという言葉にこめられた意味は、直後の園長先生の発言で明らかになってしまいます。保護者に対し、保育園側の方針に合わなければ来ないでくださいとは言えないし、言つてはいけないというのが園長先生の考えです。園長先生はそれに続く部分で保護者について「子どもを育てるうえでの対等なパートナー」と表現し、お互いに子どもの成長や幸せに必要なことを伝えあう必要性について述べています。この部分をまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点 それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

**問四 A2 知識 比較**

語句の意味を答える問題です。原則として辞書の意味にそつたものが問題になります。辞書の意味をもとに、文章中でどのように使われているのかをとらえましょう。また、知らなかつた言葉は、できるだけ例文の形で覚えるようにします。

④「のんびり」と「のんびり」の「のむ」は、相手の要求を受け入れることを表す表現です。したがつて、ウが正解となります。

## 問五

## B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 直前に「坂寄も」とあることに注目しましよう。さらに前の部分で、園長先生が風汰の目を見ていたずらそうに笑っています。風汰はクレームを受けてショックを受けていますが、園長先生にとつてはそれほど大きな問題ではないと感じられることだったの、大真面目にとらえる風汰に悪いとは思うものの「どうでもいいこと」と表現しています。坂寄先生も同じ気持ちなので、それほど大きな話でもないことを大きく受け取っている風汰の様子を見て笑っているのです。したがつて、ウ「おかしそうに」が入ります。

ii お父さんに抱き上げられた空君がうれしそうにしている様子が描かれています。大好きな父親に抱きかかえられた子どもの反応としてふさわしい表現はア「くすぐったそうに」です。

iii 空君のお父さんの機嫌きげんがよかつたことについて坂寄先生

からたずねられた風汰が「そつすか?」と返答している場面です。空君のお父さんの機嫌がよかつたのは、風汰とのやりとりで自分が作つたカレーを空君がとても気に入つていることを知つたからでした。風汰はそうなることを期待

(8) 「やみくもに」は、漢字で「闇雲に」と書き、深く考えもせず、むやみに物事を行うことを指します。したがつて、エが正解となります。

## 問六

## B1 具体化 比較

—線⑤の直前で、風汰は「つてことは、逆にラツ」と言いかけています。あまりやりたくないおむつ替えの業務を他の保育士にやつてもらえる状況であることに気づいてこのようない言い方になつていてそれを読み取りましょう。二人が同時に風汰を見た後で風汰が「へへっと笑つて」いることから、二人はあまりやりたくない業務を他の人にやつてもらえる状況を喜ぶ様子をたしなめるように風汰の方を見たと考えられます。したがつて、イが正解となります。ア「風汰をはげます」、ウ「風汰の芯いんの強さを頼もしく思う」、エ「ずるいと感じて非難しよう」がそれぞれ誤っています。

## 問七

## B2 具体化 比較

園長先生の考える保育園としてのあり方や坂寄先生の考える「親への支援しづけん」を聞いた風汰が、自分なりに仕事の中でのそれをやってみようとしている場面です。空君のお父さんは園での様子を伝えようとする風汰に対してことばを遮つたり、トイレに行つている空君を待つようとに言われて小さく舌打ちをし、スマホをとりだして見始めたりしています。風汰の意図に対して乗つてこないお父さんに対し、風汰はめげずに話しかけ続けています。以上のことから、イ・オが正解となります。ア「自分が手厚い保育を提供していることを伝えたい」、

してお父さんにその話をしているため、お父さんの機嫌がよかつた理由に気づいています。気づいているにもかかわらずわざと「そつすか?」と反応しているのです。したがつて、オ「とぼけたように」が入ります。

ウ 「育児の大変さを楽にしてあげたい」、エ 「空君より仕事やスマホに夢中になっているお父さん」 がそれぞれ誤っています。

**問八 B1 理由 比較**

散歩中に気になつたことを伝えようと思っていたのにそうしなかつた理由を、風汰自身がどのように考えているかを意識して読み進めましょう。4ページ下段に「今日のお父さんと共に共有するのは、不安ではなく喜びがいい」とあります。風汰はこの場面で、散歩中に気になつた少し不安になるような内容をお父さんに伝えるより、カレーの話をするほうがよいと判断したのです。したがって、アが正解となります。イ「都合がよいと思った」、ウ「仕事のことで頭がいっぱいになつているお父さん」、エ「空君に不利益があるかもしれないと思った」がそれぞれ誤っています。

**問九 B1 関係づけ**

(9) の前には、最後に帰る親子は姿が見えなくなるまで見送り、十分ほど玄関の明かりをつけておく、という園長先生の考えた気配りが書かれています。これは、お母さんが振り返ったときに暗くなつた保育園を見て淋しい気持ちにならないようにするための配慮です。この場面は夜中の二時ですから、外は暗い状態です。その状態で淋しさをまぎらわせてくれるもの、ということでア「夜中のコンビニ」が当てはまります。

**問十 B1 関係づけ**

抜けている文を元の場所に戻す問題です。最初に抜けている文 자체からできるだけ多くの情報を見つけたうえで、それらをもとに本文をていねいに探ししましょう。「一人」「幸せそうに見えた」から、空君のお迎えで、風汰が二人を見ている場面であることが予想できます。4ページ下段をていねいに探すと、「お父さんに抱き上げられた空君も、抱きかかえたお父さんも、いい顔をしていた」という表現が見つかります。脱文はこの直後に戻ります。

\*書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 池田喬『嘘をつく』はどういうことか（筑摩書房）から出題しました。

嘘をつかないような生き方をしている人について、ドイツの教育哲学者オットー・ボルノーの言葉を参考にしながら、「正直」「率直」「誠実」をキーワードに考察していく文章です。

**問一 B1 具体化 関係づけ**

「尊敬の念を込めて正直と呼ばれる人」と同じ内容の表現を探して読み進めていくと、9ページ上段に「『あの人は正直だ』と賞賛を込めて言われる人」という表現が見つかります。それに続く部分で、そのような人について「普通の人であればつい嘘をついてしまうような場面でも、ぐつと思いつどまつてそうしない、そういう精神的な力をもつてている人」と説明されています。さらに読み進めると「自分が信じていることを正直に言つたり、相手とオープンに話し合うために努力し

たりする人」とあります。空らん前後で並列の「たり」が使われていることにも着目しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問二 B1 具体化 比較

「特別な内面性」ができるあがる前の状態は、8ページ下段に「まだ嘘をつくことのできない子ども」に見られる状態である、と説明されています。ここでは、「他人に対する不信を知らず、内面を隠すことを知らない状態」とも書かれています。これに対し「特別な内面性」ができるあがつた状態とは、同じく8ページ下段の後半で「自分が信じていることを隠しておくことができ」る状態であると説明されています。このことから、アが正解となります。イ「他人に対する不信感を抱いておらず」、ウ「自分の内面を他人に示してもよいと考える」、エ「事実と異なることは言わないという強い意志をもつた」がそれぞれ誤っています。

## 問三 B1 置換

——線③に書かれた状態は、ボルノーが言うところの「率直」にあたる状態です。8ページ上段に書かれている内容でいえば、「自分や他人を守るために必要な場合でも、思ったことをそのまま無防備に口にする」状態といえるでしょう。内面で思っていることがそのまま出てくる状態です。この部分に「馬鹿正直」という表現がありますが、字数条件が合いません。そのまま読み進めていくと、8ページ上段の後半に「ガラス張りの状態」という表現が出てきます。字数条件と内容をと

もに満たしており、これが正解となります。  
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問四 B1 関係づけ

④の直後に、「内面を隠したり、他人を騙す意図をもつたりすることができる限りで、『嘘はつかないぞ』という決断もできる」と書かれています。このことを言い換えると、嘘をつくことができる存在だからこそ、「嘘をつかない」という決断もできる、という意味で解釈することができます。したがって、イが正解となります。

## 問五 B1 関係づけ 比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。まずは接続詞そのものの働きをつかみ、前後内容との照らし合わせによってふさわしいものを選びましょう。

『1』の直前には、「嘘はつかないぞ」という自発的な意志を働かせる条件として、内面を隠したり他人を騙す意図をもつたりできることが挙げられています。直後でこれを「自分の都合が悪くなれば嘘をつく誘惑にかられてしまったり、本当のことを言つたら周囲にからかわれると分かれば嘘をついてその場をしのぐ技術をもつていていたり」すると言い換えています。同じ内容を別の言い方で表現していることから、エ「つまり」が入ります。

『2』の直前には、「自分自身を見捨てる」とはどうい

う状態なのかということが書かれています。これに対しても、「自分自身に対し後には、自分自身を見捨てそうになつても、「自分自身に対ししてとらわれず自由な態度」をもつ可能性が残されていることが書かれています。前後で対照的な内容を述べていることから、ウ「しかし」が入ります。

『3』の前の部分には、嘘をつくという実践<sup>じっせん</sup>が社会の価値判断に順応することによって起こることであるという内容がいくつか書かれています。『3』に続く部分の終わりに「この場合にも社会の価値判断に沿った対応という面が見られます」とあることから、この部分も列挙するうちの一ひととらえることができます。したがつて、似たような内容を並べるア「さらに」が入ります。

## 問六

## B1

## 関係づけ 比較

嘘をつけば⑤には人間関係を維持できそう、という表現から「とりあえずその場は」というニュアンスが読み取れます。これにあてはまるのはウ・エの「表面的」です。また、

⑨の前後を確認すると、子どもの成長に「社会化され、世の中の期待や価値判断に順応していくこと」と、子どもの成長に「自分のやつていることは自分らしくない」という感覚をもつこと<sup>かく</sup>が同時に含まれていることが示されています。成長するという言葉の意味と「自分のやつていることは自分らしくない」という感覚<sup>かく</sup>が一見矛盾するように感じられることから、⑨には「逆説的」が入ります。以上のことから、ウが正解となります。

## 問七

## B1

## 具体化 比較

——線⑥の次の段落を読むと、本当のことを言うこと』『自分自身に対してもとらわれず自由な態度』を取ることである、ということがわかります。これをもとに検討すると、ウが正解となります。ア「本音を見せないようにし」、イ「上手な嘘をつき続ける」、エ「自分が本当はどうしたいのかということを極力考えない」がそれぞれ誤っています。

## 問八

## B1

## 具体化 関係づけ

本文の別の場所で、「誠実さ」という言葉そのものについて説明している部分を探しましょう。すると、10ページ下段の前半に「誠実さは、自分のあり方に悩み、自分らしさを求めるその心の働きに対する名称だと言える」という表現が見つかります。字数条件と合わせて、必要な部分を抜き出します。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

## 問九

## B1

## 具体化 関係づけ

——線⑧の直後に、ボルノーの言葉として「不誠実の精神に引き入れられることは、個人が、権威をもつた集団からの期待やその集団の価値判断に順応する傾向において生じる」ということが説明されています。ただしこの部分からは十一字のちょうどよい表現が抜け出せませんから、同じようなことを別の言い方で表現している部分を探しながら読み進めます。この後の部分で、嘘をつくということについて「社会の価値判断に順応」することがきっかけになる例が続いており、

それを子どもの成長に関連づけて「子どもが成長するという事には、社会化され、世の中の期待や価値判断に順応していくことが含まれます」という説明が続いています。したがって、この部分から「世の中の期待や価値判断」という十一字の表現を抜き出せばよいことになります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十 **B1** 関係づけ

嘘をつくことが何をもつことの実践なのかを問う問題です。

この空らんに入る言葉を考えるうえで、正反対の状態、すなわち嘘をつけない状態の人がある「もっていない」ものは何かを考えてみましょう。8ページ下段で「まだ嘘をつくことのできない子ども」、すなわち「率直」な状態の子どもにふれ、「特別な内面性を形成し遂げる以前の状態」であると説明されています。したがって、このような嘘をつくことのできない子どもは「内面」を持つていなければなりません。ここから考えると、嘘をつくことは「内面」をもつことの実践であるといえます。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十一 **B2** 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分と対応した選択肢なのかを考え、必ず本文に戻って、選択肢の内容と照らし合わせて正誤を考えましょう。  
ア 「『馬鹿』<sup>ばか</sup> という表現はついても正直な人」は、8ページ

上段の内容と合いません。ウ 「嘘をつくのは仕方ないことがある」は、9ページ下段の内容と合いません。エ 「本当の自分はどういう存在なのかな」は、10ページ下段の内容と合いません。

イ の内容は9ページ上段に書かれていることと合っています。

**3 A2 知識**

俳句の季語が表している季節を答える問題です。原則として、食べ物の旬などふだんの生活感覚に合った季節を選ぶことになりますが、旧暦では一月が春、四月が夏、七月が秋、十二月が冬になることに注意し、現代の生活感覚とされたもの（例 朝顔、すいか は秋の季語）は個別に覚えるようにするとよいでしょう。

**4 A1 知識**

例文の空らんに当てはまる外来語を答える問題です。外来語を文脈から切り離して意味だけを覚えるのではなく、どのような場面でどのような言葉とともに使われる言葉なのかを覚えておきましょう。